2024 年 10 月自然を語る会報告

第 15 章　自然は逆襲する

2024 年 10 月 19 日　10 時～12 時
飯田橋ボランティアセンター＋zoom
参加者　12 名
担当：村上さん

第 15 章は、「自分たちの満足のいくように 勝手気ままに自然を変えようと危ない橋を 渡りながら、しかも身の破滅をまねくとすればこんな皮肉なことはない。 それはまさに私たち自身の姿なのだ。」というレイチェルの言葉から始まります。生きものたちは網の目を張り巡らせたようにお互いが複雑に関係し合っていて、それを人間がコントロールしようと勝手なことをすると手痛い目にあうのです。

私たちが見落としている重大なことが 2 つあります。一つは、人間が手を下さなくても、自然がコントロールしているということです。何百万個も産み付けられた魚の卵も、大きくなるのは結局両親とほぼ同じ数だけです。もう一つは害虫駆除のために化学薬品を撒いても、昆虫に耐性ができてすぐに効かなくなり、逆に自然の均衡が崩れて、大発生するものも出てくる、ということです。そのための損失のほうがはるかに大きいのです。

何故こういうことが起きるのかというと、もうけを優先する化学薬品会社と、その恩恵にあずかっている御用学者のせいです。でも、目の澄んだ学者もいます。自然のコントロールを利用してりんご園を成功させた例が出ています。殺虫剤を撒く場合の 1～2 割の費用で、収穫を確保できたそうです。

「人間が一番偉いという態度を捨てるべき。自然環境そのものの中に、生体の個体数を制限する手段がある」

担当者は、ご自身も自然の逆襲を強く感じている化学物質＆電磁波過敏症でもあり、「いのちの林檎」や日テレドキュメンタリー「化学物質過敏症」などの youtube も見ながらの解説は訴える力がありました。本当に、レイチェル・カーソンの予言（？）が現代にぴったり当てはまってきていると感じられた読書会でした。

（小川記）